

信經

我信ず 一の神父全能者 天と地見ゆると  
 見えざる萬物を造りし主を。又信ず 一の  
 の主 イイスス ハリストス 神の獨生の子  
 萬世の前に 父より生まれ 光よりの光  
 眞の神よりの 眞の神 生まれし者にて 造  
 られしに非ず 父と一体にして 萬物彼に  
 造られ 我等人々の為 又我等の救の為に  
 天より降り 聖神及び童貞女マリヤより  
 身を籍り 人と為り 我等の為に ポンテイ  
 イピラトの時 十字架に釘うたれ 苦し  
 みを受け 葬られ 第三日に 聖書に叶うて

復活し 天に升り 父の右に坐し 光榮を顯  
 して 生ける者と 死せし者を 審判する 為に  
 還た 來り その 國終りなからんを。又信  
 ず 聖神 主生命を 施す者 父より 出で 父  
 及び子と共に 拝まれ 讚められ 預言者を  
 以て 嘗て 言いしを。又信ず 一の 聖なる  
 公なる 使徒の 教會を。我認む 一の  
 洗禮 以て 罪の 赦を得るを。我望む 死者  
 の 復活 並に 來世の 生命を。「アミン」

## 天の王

天の王慰むる者や眞實の神在らざる所  
なき者満たざる所なき者や萬全の寶蔵  
なる者生命を賜ふの主や來て我等の中  
に居り我等を諸々の穢れより潔くせ  
よ至善者や我等の靈を救い給へ

## 天主經

天に在す我等の父や願は爾の名は聖  
とせられ爾の國は來り爾の旨は天に  
行はるるが如く地にも行はれん我が日

用の糧を今日我等に與へ給へ我等に債  
ある者を我等免すが如く我等の債を免  
し給へ我等を誘いに導かず猶我等を  
凶惡より救い給へ。蓋國と權能と光榮  
は爾に世世に歸す。「アミン」

## 第五十聖詠

神や爾のたいなる憐みに因て我を憐み爾が  
恵の多きに因て我の不法を抹し給へ屢々我を我  
が不法より洗い我を我が罪より清め給へ蓋我は  
我が不法を知る我の罪は常に我が前に在り我は  
爾獨爾に罪を犯し惡を爾の目の前に行へり

爾は爾の審断に義にして爾の裁判に公なり  
夫れ我は不法に於て妊まれ我が母は罪に於て我  
を生めり夫れ爾は心に眞實のあるを愛し我が  
衷に於て智慧を我に顯せり「イソプ」を以て我  
に沃げよ然せば我潔くならん我を滌えよ然せ  
ば我雪より白くならん我に喜びと樂とを聞か  
し給へよ然せば爾に折られし骨は欣ばん爾の  
顔を我が罪より避け我が蓋くの不法を抹し  
給へ神や清潔き心を我に造り正直き靈を我の  
衷に改め給へ我を爾の顔より逐うこと勿れ  
爾の聖神を我より取り取り上ぐること勿れ爾が救  
ひの喜を我に還し主宰たるの神を以て我を  
固め給へ我不法の者に爾の道を教へん不度の者

は爾に歸らんとす神や我が救ひの神や我を血よ  
り救ひ給へ然せば我が舌は爾の義を讃揚げん主  
や我が唇を啓けよ然せば我が口は爾の讚美を  
揚げんとす蓋爾は祭を欲せず欲すれば我之を  
獻らん爾は燔祭を喜ばず神に喜ばるゝの  
祭は痛悔の靈なり痛悔して謙遜なるの心は  
神や爾輕じ給はず主や爾の恵に因て恩をシ  
オンに垂れイエルサリムの城垣を建て給へ其の  
時に爾義の祭献物と燔祭とを喜び饗けん其  
の時に人々爾の祭壇に犢を奠えんとす。

## エフレムの祝文

主吾が生命の主宰や怠惰と愁悶と陵駕  
と空談の情を我に與ふる勿れ。貞操と  
謙遜と忍耐と愛の情を我爾の僕(婢)  
に與へ給へ。嗚呼主王や我に我が罪を見  
我が兄弟を議せざるを賜へよ。蓋爾は  
世々に崇讃めらる「アミン」  
神や我罪人を浄め給へ 十二次  
主吾が生命の云々

## 常に福

常に福にして全く玷なき生神女 吾  
が神の母なる爾を 福なりと稱ふるは  
眞に當れり ヘルウイムより尊くセラ  
フイムに並びなく榮え 貞操を壊らずし  
て神言を生みし 實の生神女たる 爾を  
崇讃む